

平成19年度事業計画

平成18年度本会の活動は、会員各位の弛まざる努力と熱意によって、ほぼ例年と同様な成果を挙げることができた。平成19年度も各事業をさらに充実発展させ、本会の運営を着実に執行してゆきたい。とくに、論文誌「Journal of Oleo Science」のインパクトファクター取得に向けて衆知を集結し、国際誌としての評価を確実なものとしたい。「オレオサイエンス」誌は、最新の情報・会告など学会と会員を繋ぐ媒体として、さらに機能を高めてゆきたい。本会最大のイベントである年会、各専門部会・若手の会・各支部が主催する講演会やセミナー、(財)油脂工業会館との共催の地区講演会、フレッシュマンセミナー、マスターズクラブ等の各種企画などは、年ごとに充実してきているが、本年度はこの流れをさらに加速させたい。本会は、5月に、カナダ ケベック市で、アメリカ油化学会と第6回 JOCs-AOCS Joint Meeting を共催するが、今後の国際交流に係わるアクションプランを作成し、本会のより一層の国際化を目指してゆきたい。また、平成18年度に創設された学術専門委員の協力を得て、様々な形で本会の広報・啓発活動を推進するとともに、“JOCs の未来マスタープラン(構想)”を作成し、本会の10年後のあるべき姿をまとめたい。さらに、広報活動の要であるHP、とくに国際化を視野に入れた英語版の充実も図りたい。

1 会務

1.1 総会

第53回通常総会を平成19年3月30日、油脂工業会館会議室で開催する。平成18年度事業報告および収支報告、平成19年度事業計画案、収支予算案等を審議し、平成19年度役員を選任等を行う。通常総会終了後、総会報告会および表彰式を開催し、日本油化学会名誉会員の推戴および功績賞ならびに平成18年度学会賞等選考結果等について報告し、表彰する。つづいて講演会ならびに懇親会を開催する。

1.2 理事会

平成19年度理事会の開催予定数は5回。平成19年度会長、副会長、常務理事の選任、運営委員長、各業務委員長および支部長等の選任、諸事業計画の企画・実行、平成19年度一般会計・特別会計決算案および平成20年度同予算案の作成等、重要案件について審議し、決定する。

1.3 運営委員会および運営会議

運営委員会の開催予定数は6回。運営会議は必要に応じて開催する。運営委員会および運営会議は、理事会に上程する重要案件について詳細な審議を行うが、さらに日本油化学会の活動方針について議論を進める。

1.4 業務委員会およびその他委員会

総務委員会は、会員の倫理基準の検討、諸規定の改定、ホームページ委員会によるHPの充実をサポートする。財務委員会は、会員増強委員会などと連携して財政基盤の健全化につとめる。企画・部会統括委員会は、専門部会間の調整・推進をはかる。国際交流委員会は、第6回 JM2007 において合同セッションおよび「日本パビリオン」を実施する。また、KOCS との JS の実現を図るほか、中国や他国との JS の可能性を打診する。オレオサイエンス編集委員会は、会員に対する情報の徹底と啓発に努力する。JOS 編集委員会は、「JOS」への内外からの投稿を増やすことに努めるとともに、インパクトファクターの取得に向けて努力する。規格試験法委員会は、基準油脂分析試験法の英文化等についてひきつづき検討する。界面試験法委員会は、界面活性剤の試験法について ISO との整合性を図る。

2 事業計画案

2.1 本部事業

第8回フレッシュマンセミナーは、「油脂と脂質」については5月に、「界面科学と界面活性剤」については6月に東京理科大学でそれぞれ開催し、油化学会が編纂・出版した教本の普及に努める。また、第7回基準油脂分析試験法セミナーと第5回界面活性剤評価・試験法セミナーをひきつづき開催し、日本油化学会制定試験法の定着をはかる。さらに、企業の中堅社員向けのセミナーとして、第3回オレオサイエンスフォーラムは共通テーマを“清潔”にして実施する。

2.2 支部活動

3支部による講演会、セミナー等は例年に倣って開催する。また、地域ごとの特徴あるセミナー開催を検討する。さらに、支部活動の範囲を広げるための地区講演会（油脂工業会館共催）は、共通テーマを「地域資源と油化学」として、酒田市（関東支部）、掛川市（東海支部）、岡山市および沖縄県西原町（関西支部）で開催を予定している。市民を対象にした生活に密着したプランも検討しており、油化学の視点から一般社会への啓発活動にも努める。

2.3 専門部会活動

専門部会は、オレオマテリアル部会、界面科学部会、洗浄・洗剤部会、オレオライフサイエンス部会、油脂産業技術部会および2年目を迎えたオレオナノサイエンス部会を加えた6部会体制で運営する。各部会は、部会長の指導のもとに専門性の追及と研究者の交流に重点をおき、専門部会主催シンポジウム・セミナー等の充実と定着化をはかる。油化学活動の基盤の役割を専門部会活動が担うことをよく認識し、独立採算制のもとに、独自性を常に意識して部会の活性化をはかる。

2.4 会誌

学術論文誌「Journal of Oleo Science」と、学術情報を中心とする「オレオサイエンス」を各12号発行する。「JOS」は会員からの積極的な投稿を募り、一層の充実を図る。2007年1月から電子版を無料にしたので、世界中からのアクセス件数が増加することを期待している。また、インパクトファクターについては取得するために必要な要件をクリアーするよう努力する。「オレオサイエンス」は会員に親しまれる会誌づくりに努め、抄録の充実化、誌面の刷新を行う。なお、本年は4件の専門部会企画特集および脂溶性化合物の健康栄養機能をテーマとした中特集号を予定している。

2.5 日本油化学会年会

平成19年度第46回年会は、川瀬徳三実行委員長（京都工芸繊維大学）のもと、京都工芸繊維大学キャンパスにおいて9月6日（木）-8日（土）に開催する。受賞講演、一般発表（口頭およびポスター）、専門部会主催のランチョンシンポジウム等を行う。また、会期中に日・中・韓ミニシンポジウムとして、中国、韓国、日本から講師を招待し、「アジアの界面活性剤事情と将来（仮題）」と題した講演会を行う。

2.6 JOCs-AOCS ジョイントミーティング（JM2007）

第6回JM2007は、2007年5月に開催されるが、合同セッション、日本の油化学関連工業のPRを目的にした「日本パビリオン」を併催する。「日本パビリオン」に出展する14社のほか8社から協賛が得られたので、日本油化学会のブースを設けて日本石鹼洗剤工業会、日本界面活性剤工業会と共同して展示を行うことになった。日本油化学会のブースには、懇談用のスペースを設けるほか、日本油化学会の概要・沿革等のパネルとパンレットの展示、「JOS」見本の展示およびPRのためのサンプリングを行う。このほかに、日本の伝統食の試食等についても計画している。